

絵本感想集

『ちいさいはたけ』たんぽぽぐみ

幼稚園でトマトを育てているからか、最近野菜に興味があるみたいです。

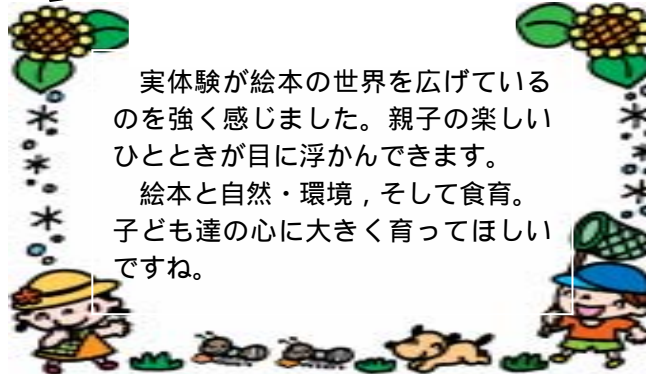
小さな種から大きな野菜ができるのが不思議でワクワクしてたまらないみたいで、食事のたびに野菜のことを聞いてきます。

でも、妹にはかっこつけたい様で、「ちいさいはたけ」の絵本を説明しながら読んであげています。



実体験が絵本の世界を広げているのを強く感じました。親子の楽しいひとときが目に浮かんできます。

絵本と自然・環境、そして食育。子ども達の心に大きく育ってほしいですね。



『みんなでキャンプ』

さくらぐみ

家族5人で、キャンプに行く話でした。場面場面の絵の割には、文字が少ない本でした。だから、日によって少し言葉が変わります。絵を見て、ママがストーリーを作って読んで聞かせてやりました。

お父さんとボクが釣りに行くのですが、魚が全く釣れず...でも川で泳いだり、トンボ、ちょうちょ、カブトムシを捕まえて帰るのです。(晩御飯をゲットしなくては...!!)

すると...ママは、たくさんの魚を釣って帰ってきました。その場面が来るたび、〇〇は、「ママ、すごいじゃ〜ん!!」って言ってました。

この本を読んで、キャンプに行ってみたいな〜って言ってます。



『はらぺこあおむし』

ももぐみ

穴の部分をあおむしが食べているところを、自分の指を絵本につっこんで「カウッ パクッ パクッ」と自分も食べてるふり。大きく成長したあおむしを見て、「チョウになるっ」とうれしそうでした。きれいなちょうちょに「うわぁ!」と声をあげていました。「ボクん家、ちょう産まれて逃がしてやったね〜」と先日からのアゲハチョウのことを思い出して、チョウの夢を見ようとすんなり寝てくれました。



『10ぴきのかえるのなつまつり』

さくらぐみ

どじょうじいさんのおはやしは、まつりに欠かせないので、みんなでどじょうじいさんをたすけに行きます。その途中にザリガニのいる土手の上から、かえるがザリガニをつついて絵を見て、「イターッ!」ってようよ!とか「バケツの水がこぼれるよ」とか、楽しそうに聞いてくれました。10ぴきのかえるのシリーズは大好きです。

『はるだはるだよ10ぴきのかえる』

10ぴきのかえるが散歩をしていると、「ぐーうぐーうといびきが聞こえてきます。」と本を読んでみると、「へびが寝ようんよ!」と、前にも読んだことがあったので、覚えていたようです。へびに追いかけて、こわい場面でも、どうなるか分かっているから、顔をそむけず見ていました。気に入っている本だと、何度も見たいようです。

『グリーンマントのピーマンマン』

たんぽぽぐみ

タイトルからして「ピーマン」がヒーローとして出てくるお話です。

〇〇は、野菜や果物が大の苦手だったのですが、幼稚園に入園してから、苦手だった野菜を頑張って少しずつですが食べられるようになってきています。そんな時期なので、この本はとても興味深げに見ていました。

絵本のお話の中で、おとこのことおんなのこが「ピーマンなんて大っきらい」といってピーマンがきらわれ者になるのですが、そのお友だちが、夜、寝ている間に、野菜をきちんと食べなかったで、「のどいたバイキン」が登場してきます。その場面で本人も、野菜を食べなかったら、どうなってしまうのか?ということが少し理解できたようです。

2回目に読んだ時には、「ぼくピーマン食べられるよ。」とにっこり笑顔でした。



はぐはぐ通信

第1号

平成20年9月11日

尾道市立木ノ庄東幼稚園

～ 基本的生活習慣の定着をめざして～

お母さん、子育てに喜びを感じられていますか？

最近ニートや引きこもり、また犯罪など子ども達の将来に不安を感じる事が多くなっています。「はぐはぐ通信」を通して子育てについて最近の情報をお知らせします。
0歳から6歳までに人間の80パーセントの脳や人格が形成されます。
子育てのテクニックやポイントを家庭と幼稚園と一緒に考えていきましょう。



★広島大学 名誉教授
利島 保 先生の講演より 引用

母親の愛情の大切さ！

スキンシップと優しい言葉がけ、優しいまなざしが子どもの脳を発達させます。
幼児期に受けたストレス体験（口やかましく叱る、無視、暴力、冷たい視線などの虐待、両親の離婚など）が脳に影響を与え、成長するに従ってPTPS（心理外傷性ストレス障害）などのストレス性精神障害（うつ病）の発生リスクを上昇させます。

しつけの大切さ！

脳の中の前頭葉は意志力の座です。意志力にはやる気を起こすプラスの意志力と、抑止するマイナスの意志力があります。やる気をおこすプラスの意志力は自然とできてきます。

しかしマイナスの意志力は訓練しなければ、十分に働きません。

しつけは、抑止力ですから、マイナスの意志力と言い換えることができます。

しつけは、繰り返すという言葉に由来しているように、マイナスの抑止力は反復することで強化されます。

この抑止力を育てることが、重要です。

この時期に大切なお母さんの養育態度は？

（福沢諭吉先生の言葉）

♥子どものしつけは言葉によるべからず、目によらしむべし。

（倉橋惣三先生の言葉）

♥真向き、横顔、うしろ姿の三対を適宜に合わせてこそ、家庭教育の進の要諦がある。

「朱に交われば赤くなる」のは、赤ちゃんの時期を最も真実を表しており、家庭での生活態度や人間関係がいかに大切で、お母さんが気を配らなければならないということです。

♥親の立ち振る舞いを見て子どもは育つ！

つぎのページへ

じゃあどうしたらいいの？

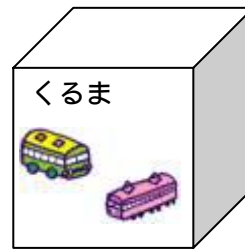
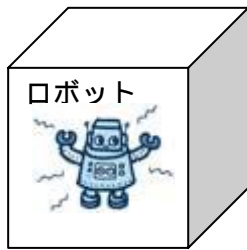
★しつけは一度ではできません。何度も何度も繰り返しながら家族皆でがんばりましょう！

★そして、できたときはしっかり誉めてあげましょう！

おもちゃを片づけさせるポイント

ダンボール箱を数個用意して色紙や包装紙を貼り、おもちゃの分類別をする。（子どもと一緒に作ってみる）視覚に訴え、色別や絵をはるなど楽しく工夫してみてはいかがですか？

片付けは箱にいれるだけで簡単です。



使わないおもちゃはダンボール箱に入れてしまいましょう。

「一緒に片づけようね。」といって楽しく片づける中で片づけの手順を知らせていきましょう。

靴を揃えさせるポイント

ダンボールなどの箱を利用して靴箱を親子で作ри、楽しく揃えるような工夫をする。

（写真参照）これを玄関において置くなど。

家族皆で実行しないと定着しません。

「うちはお父さん靴そろえんのよ。」などの声が子ども達から聞かれます。



挨拶をさせるポイント

家庭の中で「ありがとう」「ごめんなさい」「はい」などの会話が当たり前になっていますか？

周りの大人が率先して挨拶しなければ、子どもは絶対に言いません。

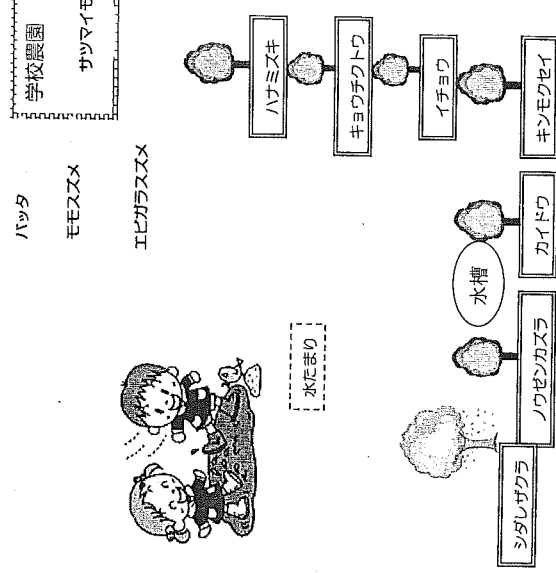
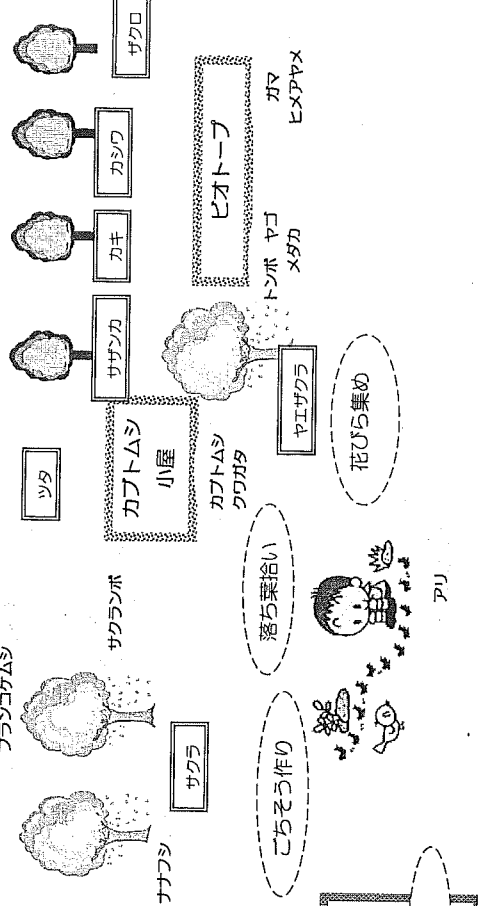
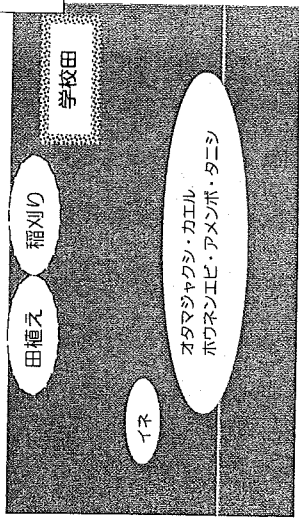
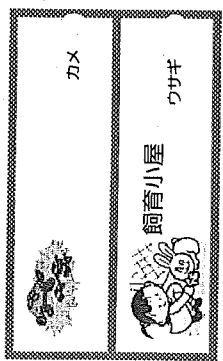
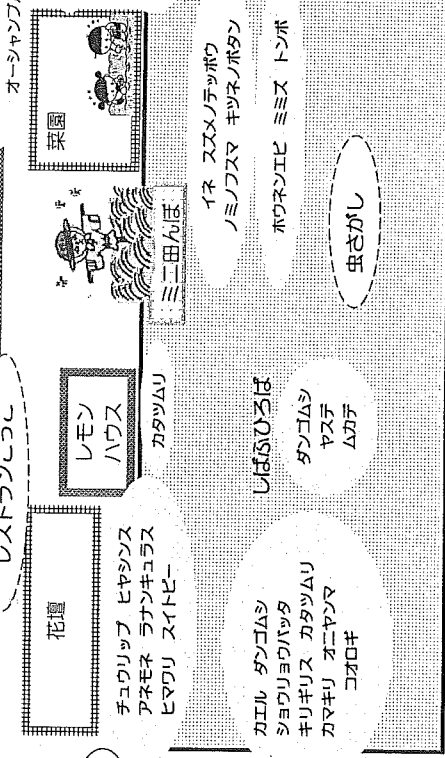
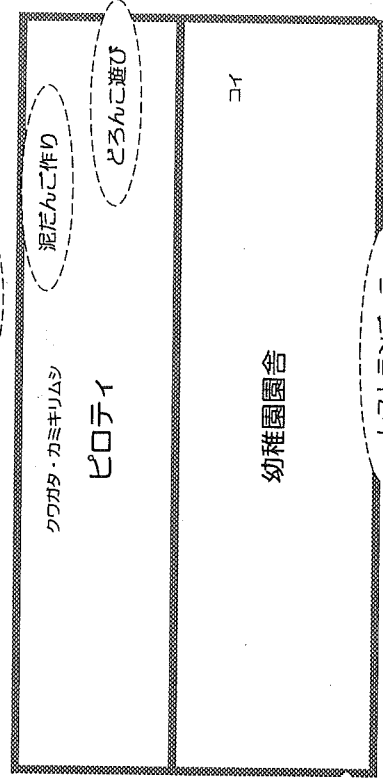
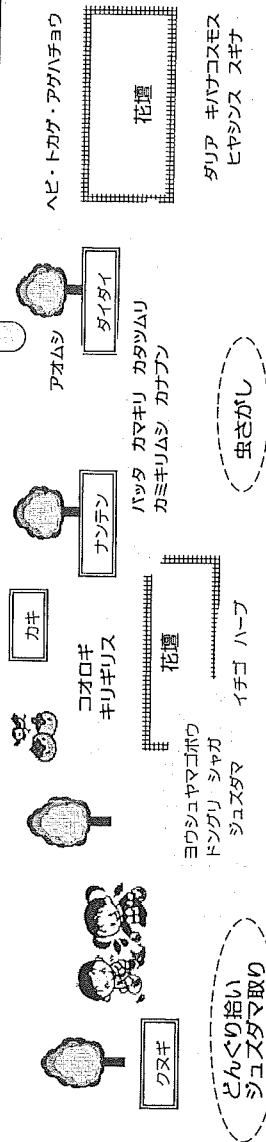
これから大きく成長して、社会に出たとき挨拶がちゃんとできないと困りますね。挨拶は社会での大切なマナーなのです。『生きていく力』のひとつです。



カラスの巣

園内の自然マップ

遊び 小動物 草花 樹木・植物 自然現象 野菜



幼小連携

事例1 トライランド・秋をしよう！

2年生 木ノ庄東小学校

3年保育 5歳児 木ノ庄東幼稚園

取組みのポイント

- 互恵的な幼小連携の在り方を探る。
- 小学生と共に、協同的な学びを進める。

「トライランド・秋」の計画をする（交流1）

幼稚園と小学生で力を合わせ、幼稚園で楽しいイベントを、自分たちで考えて進めていくことを知らせる。

「レストラン」「野原の虫のコリントゲーム」「水辺の生き物のコリントゲーム」の3つの遊びをすることにし、グループを決定する。

自分がやってみたい遊びを選択する。

《コリントゲーム(野原の虫グループ)〔水辺の生き物グループ〕》

T 「どんなゲームにしたい？」

小学生「うーん、虫のゲーム？」

T 「どうなるの？」

園児「コースに分かれてゴールに点数がある。」

小学生「例えば、100点・10点とか。」

T 「じゃあ、小学生が設計図を書いてきてくれる？」

小学生「いいねえ・・・。」

T 「今度、水辺の生き物と野原の生き物を調べてきてくれる？」

小学生「いいよ、わかった。」

園児「僕らも、書いてみようかな・・・。」

《レストランごっこグループ》

T 「どんなレストランにしようか？」

幼児「お客さんがいっぱい来てくれるレストラン。」

幼児「おいしい料理がいっぱいあるのがいい。」

T 「レストランになにがあったらいい？」

小学生「メニュー。」

小学生「看板。」

T 「メニューはどうやって作ったらいいかな？」

小学生「あのねえ、料理を作ってそれを写真で写して貼るの。」

T 「すごいね、それいいアイデアだね。じゃあそうする？」

幼児「楽しそう！」

T 「どんな料理をつくるか絵に描いてみようか。」

小学生「いっぱい描いて来る。」

T 「看板もお願いできるかな？」

小学生「描こう、描こう！」

みんなで盛り上がっている。次の活動に期待をもっている。

計画を投げかけると、2年生も園児も目が輝いてきている。

子ども達は何に心を動かされ、どんな遊びをしたいのだろうか。

主体的な活動になるように子ども達の興味や関心を引き出し、大好きな昆虫の題材を子ども達に投げかける。

自分たちで作るゲームに期待し意欲が満ち溢れている。

小学生が主体を持つように話を進めていく。

楽しくなりそうなアイデアや活動を取り上げる。

教師が子ども達の見解を認めるごとに、皆の表情が生き生きしてくる。

小学生のアイデアや意見に驚き尊敬のまなざしで見ている。

発表しよう(交流2)

2年生は事前に調べてきたものを園児の前で発表する。自信満々である。

《コリントゲームグループ》

小学生「水辺の生き物を発表します。」

小学生「野原の生き物を発表します。」

園児「知らない虫がいっぱいいる。2年生はすごいね。」

T「幼稚園の子は名前と虫が一致していなくてわからないので、絵を描いてみようか？」

小学生「じゃあ、紙をください。」「図鑑で調べよう。」

図鑑を見ながら、園児と一緒に虫の絵を描いた。

《レストランごっこグループ》

両グループとも、次回までに必要な材料や木の実などを自分たちで集めてくることを確認しあう。

作っていこう(交流3)

《コリントゲームグループ》

2つのグループで作っていく。大きな素材を目の前に途方にくれている。ドングリを転がしながら傾斜の様子を見る。

小学生「どうしたらいいかな。」「斜めにしないと。」

小学生「ここに、牛乳パックを立てて。」

園児「僕、こっち持つ。」

園児「このカップ使える？」

小学生「いいけど、ちょっとみんな集まって」

(設計図通りにどうやったらいいか話し合う。)

小学生「どうしたら良いかなあ。」

みんなで相談しよう！」

小学生「ここに道を作るところをわかれてする？」

園児「そうしよう！僕はこっちを担当。」

《レストランごっこグループ》

小学生「ご馳走を作ってメニューをどんどん作っていこう。」

園児「わかった。」

小学生「できたらデジカメで写真とってメニューにするよ。」

園児「みて、すごいでしょう！」

小学生「きれい！どうやって作ったの？」

園児「ヤマゴボウをシェイクすると泡が立ってクリームみたいになるよ。」



いちごアイス



ドングリお子さまランチ



木の実カレー

2年生の知識の豊富さに、幼稚園児は感心している。

生きた会話が飛び交っている。園児も自分にできることを模索し、小学生に積極的に話しかけている。

子ども達が、友達と力を合わせ、切磋琢磨して作り上げていく喜びを味わわせるために、これからの活動は見守ることにしていく。

自分の描いてきたコリントゲームの完成予想図をグループのみんなに説明し、作り方を確認しながら、グループの気持ちを一つにする方向性を示している小学生を憧れの気持ちで見ている。

子どもの発想や工夫したところを認め、みんなで協力して作っていくよう、見守る。
子どもの創造力は素晴らしい！

完成にむけて（交流４）

《コリントゲームグループ》

次々と出来上がっていく。

小学生「ここ、持っというて。」

小学生「どうやってくっつける？」

園児「僕がガムテープでつける。」

小学生「じゃあ、任す。」

園児も小学生も回を重ねるごとに、自分たちができることを黙々としている。ゴールの点数を競うより転がるコースの面白さや工夫を楽しんでいる。

《レストランごっこグループ》

メニュー作りが始まる。自然物を工夫して作った料理に名前を付けていく。

小学生「これ、なんていう名前？」

園児「木の実のシャキシシャキサラダ。」

小学生「カタカナわかる？」

園児「読める。」

小学生「じゃあ、書くよ。」

字が上手くかけない園児に代わってメニューを描く小学生を羨望のまなざしで見ている園児。



ドングリを転がし、試しながら作っている。

素朴な作品ができているがガムテープひとつでも、慎重に作っている。

自分の思いが小学生の力を借りて、次々と実現していくのを見ている園児。



「トライランド・秋」をしよう！（交流５）

*チケット作りをする。

*２年生とペアになり活動をする。

*１年生と３・４歳児クラスにチケットを配る。

*自分たちの役割を２年生と一緒にやり遂げる。



ペアの小学生に教えてもらいながらチケットを配布する。小学生に伝え方を教えてもらって自信をもっている。

反省と次の交流に向けて（交流６）

T 「『トライランド・秋』はどうだった？」

園児「お客がいっぱいで忙しかった。」

T 「困ったことはなかった？」

園児「コリントゲームで虫のグループはお客が少なくてももしろくなかった。」

T 「どうして？水辺のグループはどこがおもしろかったのかな。」

園児「ジャンプするところ。」

T 「野原のグループとどこが違ったの？」

小学生「水辺のグループはゴールに点数があったから。それにコースにスリルがあったからおもしろかった。」

小学生「点数を計画ではしていたけど、時間が足りなかったから完成できなかったのが残念だった。」

T 「じゃあ、今度するときはしっかり計画的にしようね。また、幼稚園に力を貸してね。頼むね。」

小学生「うん、いいよ。」



楽しかったけれどもなんとなく不完全燃焼だった活動に責任を感じているのか、小学生は発言しなかった。

活動の振り返りをする中で、良かったところや不備なところを明確にしていくことが次の活動の成功につながっていくことを伝えていく。

【考察】

子どもの主体的な活動を中心に活動を仕組むことが協同的な学びにつながる

交流に当たっては子どもの実態に対応し、子どもがやってみたいという気持ちを大切にしたい題材を選択した。ただの行事の交流に終わらないよう配慮した。

1学期は船作りという題材で小学生にペアになって、2年生に船の作り方を教えてもらうという活動を経験している。

2学期になると年長組は小学校の接続期として、協同的な活動を求める時期である。また、小学生も協同的な学習活動ができるようになる発達のある時期にいる。

協同的な活動は、一人一人の子どもが社会性を高めていく重要な体験である。

職員間の交流や相互の教育内容の理解が大切である

幼小の交流が互恵的、継続的、計画的に行われるよう、職員間で事前や事後の打ち合わせを綿密に行う必要性を感じた。

教師の意図で活動を進めていくのではなく、子どもを主体に援助を心がけた。困ることや挫折を感じることも2年生を主体に話し合いながら遊びを進めるよう配慮した。

幼稚園では幼児の実態を見ながらねらいを設定し幼児の活動を援助していく。

生活科では、単元と単元のつながりや関係性を意識する。互いに『今、何を子どもたちは求めているか』を考え、接点を見つけていきながら題材を設定していった。

2年生は、ストーリー性を重視して単元を連続する。身の回りの対象への見方や考え方を広げ、思考力を伸ばし、気付きの質を高めていくことにつながるようにしていくことが大切などを理解し、活動を見守りながら、適切な援助を心がけた。

子どもを主体に活動を進めていくことが重要である

活動を進めるに当たって、必ず子ども達と話し合いながら皆が共通理解することに努めた。

教師も共に感動を共有しなければ、子どもの心に寄り添うことができず、子どもの発問も促すことができないことが分かった。次の4点で活動を進めていくと学びのある活動になる。

- 1 振り返り表現する機会を設ける
- 2 伝え合い交流する場を工夫する
- 3 試行錯誤や繰り返す活動を設定する
- 4 子どもの多様性を生かす

幼小連携で互いに育つ

交流が深まるにつれ、小学生は自信をもち、自分でできることを真剣に考えながら園児たちに接していた。園児に理解できるように説明する為に事前に調べたり、優しい言葉で話したり、たくさんの知識を持つよう努力をしていた。

また、園児たちは小学生の話し方や遊び方をまねている。そして、もっと知りたい、やってみたいという学びの意欲が生まれている。

「頑張ったらお兄さんのように、何でも出来るのだ。」「早く小学生になりたい。」という憧れの気持ちも育っている。

自分たちが小学生に優しくされたように、年下の子に優しく接するようになり、交流前よりも言葉遣いが大人びてきており、我慢することもできるようになってきている。

取組みのポイント

- 身近な自然に四季を通して継続的に触れることで、興味や関心をもつ。
- 感動体験を通して、好奇心や学ぶ意欲が生まれる。

ダンゴムシがいるよ！（4月下旬）

泣いて母親から離れられない3歳児。園庭にいるダンゴムシに興味を示し母親から離れダンゴムシを見つけるのに夢中になっている。

3歳児「いっぱいある～。」

T 「ほんと！いっぱいいるね！

カップに捕まえたのをに入れる？」

3歳児「うん！」

つかまえたダンゴムシは、飼育ケースに入れて、幼稚園で飼ったり、カップに入れて家に持って帰ったりした。

ダンゴムシとのふれあいを通して、朝、ダンゴムシをつかまえるのを楽しみに、登園してくるようになってきた。



ダンゴムシを好きになって幼稚園に来るのが楽しくなってほしい。

ダンゴムシのお母さんを見つけた。描きたい！（5月中旬）

5歳K「先生、ダンゴムシが赤ちゃんを産んだよ。」

T 「え～！見つけたの？どれどれ？」

5歳K「これよ、みて！お母さんがこっち。赤ちゃんをお腹に抱っこしているよ。」

T 「すごい！お母さんを描いてみる？」

5歳K「うん、描いて見せてあげる。」

得意そうにダンゴムシをダイナミックに描いているK児の側で4歳児のS君がじっと見ている。

T 「どうしたの？S君も描いてみる？」

こっくりとうなずくS君。S君は絵があまり得意でなく、今までは自信がなかった。K君と一緒に並んで、S君もK君の絵を見ながら描けた自分に満足している。

《お腹に赤ちゃんがいるダンゴムシを絵に描く》



ダンゴムシと触れ合って、興味をもちはじめた。虫のことを知りたいという気持ちが高まってきている。

ダンゴムシを見て感動したことや言葉で表現できないことを絵で表現するようにしてみよう。

ダンゴムシを通して、友だち同士のかかわりも深まるきっかけになれば…。一緒に誘ってみよう。

ダンゴムシの秘密をみんなにも知らせよう。
もっと興味を持って欲しい。
ダンゴムシの絵本をたくさん読んでみよう。

自然マップを作ろう！（6月）

大ニュース！
カラスが3つ巣
を作っていたよ。
11月13日



感動した子どもが自由に描いてマップにどんどん貼っていく。1年間でゆっくりと作成できたらしいな。

幼稚園にどんな虫がいるか子ども達と一緒に見つけていこう！

感動をみんなで味わっているのだ。本物を見ること、本物に触れることは、とてもよい経験になる。

4月からの、ダンゴムシとのかかわりを通して、園内の様々な虫たちに興味をもちはじめた。絵本で知ったバナナムシ（ツマグロオオヨコバイ）・マイマイカブリ・バッタ・カマキリなど、どこにいたのかをみんなで知ることができるような、自然マップを作ることにした。

見つけた虫を絵に描き、マップの中に貼り付けていった。子ども達は、マップの前で足を止め、会話をしている。

4歳「バナナムシはここらへんにおるんよ。」

5歳「ぼくはレモンハウスにおるのを見たよ。」

4歳「へえ～知らなかった。」

4歳「また探してみよう！」

マップを通して、子どもたちの虫への興味が高まり、またどこに住んでいるのか、どんな虫がいるのかななどを共通認識できる機会にもなった。

虫に関する図鑑や絵本を用意し、子ども達が虫に興味や関心が深まる環境構成をしていく。

ダンゴムシの脱皮だよ！（7月）

ダンゴムシへの興味は勢いを増し、毎日のように観察する姿が見られた。『ぼく、だんごむし』という絵本では、ダンゴムシの生態が詳しく描かれていて、ダンゴムシの脱皮のことも詳しく載っていた。

R児「見て、見て！ダンゴムシが脱皮しているよ。」

F児「何々？見せて。」

M児「私も見たい。」

（ダンゴムシが下半分に白い皮をつけている。）

T「すごいね！絵本に描いてあったとおりなんだね～！」

R児「半分だけ脱皮している。」

E児「パンツみたい。」

M児「おもしろいねえ！」

《ダンゴムシのオスとメス》



《ダンゴムシの脱皮を虫眼鏡で見る園児》

教師も共に感動をし、共感することが学ぶ意欲をもたせることができる。

発見したこと・驚いたことをみんなで共有し合いたい。ダンゴムシってすごいな。

ダンゴムシを毎日見ているからこそその発見である。興味が継続することで、新たな発見につながるのだな。

【考察】

身近な園内の自然環境の充実に努める

子ども達の大好きなダンゴムシは不思議がいっぱいで、教師も驚いたことがたくさんあった。子どもたちは、日々、霧吹きをしたり、葉っぱや石を観察ケースに入れたり、家からチーズを持ってきたりと積極的にダンゴムシにかかわっていた。

日々のちょっとした変化をとらえることができたのは、毎日のかかわりによるものだとあらためて感じた。自然の不思議や驚きの感動は、実物に触れることで、こんなにも強くすばらしいものになることを、子ども達も感じているようだった。

虫の生態を分かりやすく描いた絵本や、図鑑などがとても役立った。興味から知識へと自然につながっていったように思う。

継続した飼育栽培などの活動を大切にする

普段、何気なく見過ごしている虫たちも、飼ってみることでいろいろなことを発見することができた。始めは、捕まえることで満足し、飼育ケースの中の虫のことを忘れることもあり、虫を死なせてしまったりすることもあったが、継続することで、羽化や、産卵などの場面に遭遇したり、今まで見たこともないような虫の姿を目にすることがあったりすることもある。そんな出来事を通して、子ども達は、虫の様子が毎日気になり継続して飼育することの楽しさを知ることができたようである。

教師が専門的な知識を持つことが子どもの興味・関心を引き出していく

飼育・栽培をするに当たっては、専門的な知識も必要なので、教師自身が主体的に知ろうとすることが重要である。そうすることで、子ども達がさらに興味や関心をもてるような環境構成が充実できる。教師が研修で知ったこと、図鑑で調べたことが、子ども達の活動に役立てることができた時、教師自身も喜びを感じ、子ども達と思いを共有しあうことができる。大人も子どもと同じで、知らないことを知ることの喜びは快感なのだ。これからは様々なことに興味をもち、主体的に学ぶ姿勢でありたい。

自分に自信がつくと次の学ぶ意欲につながる

子ども達は、自分が見付けたこと、知ったことを教師や友だちの中で認められることで自信をもつ。またその自信が「もっと知りたい」という意欲につながっていく。日々の子どもたちの驚きや発見を大切に、しっかり共感したり、みんなに知らせたりすることで、「虫のことなら任せて！」という自信をもつ子どももたくさんいた。虫のことをきっかけに、幼稚園での日々の生活すべてに自信をつなげることもできてきた。

教師がしっかりと子どもの思いを捉えて、自信につなげていくことが大切である。

四季を感じる感動体験をする中で、好奇心が育つ

飼育・栽培活動を通して、季節の移り変わりで、生き物も変化していくことに気付くことができた。継続しているからこそ、「冬が近づくと、ダンゴムシは見えなくなったね。」「夏にとったバッタより、秋にとったバッタの方が大きくなっている。」「カマキリは秋になるとすごく多くなってきた。」などの気付きがある。

また、栽培活動においても、花や実などを日々の遊びの中に取り入れたり、水やりをしたりする中で感動したことを通して、子ども達は、「春はこの葉っぱでジュース作りをするとおもしろい。」「秋はこの実で作ると色が良く出る。」などの知識を体で会得する。日々の感動体験は子ども達の中で「なぜ」「どうして」「なるほど」と好奇心となって、さらなる学びを引き出していく。

感動体験

事例3 お母さんが作ったの、おいしいね！

取組みのポイント

- 小学校・地域・保護者と共に多様な体験活動を行う。
- 地域の自然を活用した保育内容を創造する。

1・2年生 木ノ庄東小学校

3年保育 3・4・5歳児 木ノ庄東幼稚園

竹の子掘り（4月下旬）

＊地域講師の三次さんの竹林へ行く。
竹からたくさんの生活に必要な道具
ができることを教えていただく。
竹の種類や竹の生長なども知る。



（竹墨・竹酢・かご・花瓶・竹串
竹の皮でおにぎりを包むなど。）

小学生と一緒に竹林へ入り、竹の子掘りをする。

小学生「すごい、いっぱいある！」

園児「どうやったら掘れるかな。」「おばあちゃん、掘って！」

「おばあちゃん忙しそうだから、Kちゃん一緒に揺すってみよう。」

「そうしよう」「わー、ちょっと動いたよ！」「でも、なかなか掘
れんね。」

小学生「手伝ってあげようか？」

園児「うん、たのむ！」

小学生と一緒にあっという間に、竹の子を掘ってみんな満足である。

さっそく、幼稚園に持って帰り絵に描いたり、ままごとに使ったりし
て遊ぶ。



竹の子を使って、毎日のご馳走作り
が始まる。

園児「すりおろして、お料理だよ！」

「筍って硬いね。」

「水をいれたら泡がでたよ。」

匂い、肌触り、など五感で竹の子を感じな
がら遊んでいる。



竹からたくさんの
身近な道具ができて
いることを知らせ竹
に興味や関心をもっ
てもらいたい。

竹林の中で、い
つもはおとなしい
子ども達も目を輝
かせて活動的に歓
声をあげながら竹
の子掘りに興じて
いる。

いつもはあまり交
流がない小学生とも
自然と話しかけたり
一緒に協力して竹の
子を掘ったり運ん
だりする姿がある。

感動し心が動く
と、一体感を感じ、
交流も深まるのだ！

竹の子を使って
思う限りの料理を
試したり工夫した
りしながら作って
いる。

自ら遊びに熱中す
る姿を前に、子ども
の探求心の深さや学
ぶ姿勢に驚かされる。
子どもの可能性は
限りない。

苺狩りをしよう！

三次のおじちゃんの苺畑に招待していただく。
三次さん「いっぱいとりんよ。」
「ここ、持ってね。」
たくさんの苺にびっくりしている。



地域の人の優しさを感じさせたい。

地域の人の好意に心から感謝の気持ちを込めてお礼を言う。
園児「おじちゃん、ありがとうございました。」

クッキング教室開催（5月8日）

地域の女性会の方々を講師に迎え、保護者の料理教室を開催する。
園児たちが収穫した筍や苺を使って献立を作成する。
筍の灰汁の抜き方から教わる。



筍を子どもが持って帰っても料理ができない保護者のために、料理教室を開催する。
地域の人から知恵をいただくことを保護者に知らせたい。

【献立】

- ・筍ご飯
- ・筍ボール
- ・筍の澄し汁
- ・出汁の昆布を使った佃煮
- ・苺大福



地域講師は出汁の昆布まで使って筍でたくさんの料理を教えてくださいました。
捨てるものがないエコ料理に感動している。

小学校と園児たちに出来たての料理が運ばれる。

T「お母さんが作ったご馳走だよ。」

園児「すごーい！」

T「皆がこの間掘った筍や苺で作ってあるんだよ。」

園児「へー！」

「いただきます。」

T「どんな味？」

園児「おいしい。すごく。」

T「お家でまた作ってもらおうね。」

園児「お母さんが作ったのおいしいね！」

自分たちが採った筍や苺がおいしいご馳走になった。

口に入るまでに、地域の人とお家の人で力を合わせて作った温かい愛を感じて食べている。温かい優しい気持ちになった。



お母さんが作った料理は、格別の味だろうか、皆、笑顔で食べている。

1・2年生に持って行って食べてもらった。
一緒にした竹の子狩りや苺狩りを共感した。

【考察】

栽培活動から食育へと活動を仕組むことで地域の文化が生まれる

栽培活動を年間計画で位置付けているが、幼児の生活の一部として栽培活動を多様な体験として仕組み、リンクさせていくことが大切である。

例えば稲作りでは小学生5・6年生と一緒にする。田植えも収穫（稲刈り）も地域の協力が必要である。稲作りから稲が成長するまでは、雨風などの天候に気を使い、スズメや害虫から稲を守らなければならないことも知る。

餅にして食べるときも、保護者や地域の協力がなければならない。皆で助け合うことを、保護者も子どもも肌で感じるができる。

食することを通して、収穫に感謝することができるので、栽培活動を教育課程の中心に位置付けている。

地産地消の観点から食から文化を感じさせることもできている。

幼児教育を保護者と共に推進する

保護者や地域に幼稚園の教育内容を理解してもらう為に、行事だけでなく、日ごろの保育に保護者が入ってもらうように工夫している。

幼稚園の一日を過ごすことにより教育内容が理解でき、教師と同じ視線でどの子にも接するようになってきている。教師が伝えたいことが、実感できて自分の子育てを振り返る良い機会となっている。

保護者が多様な保育活動（保育参加やPTA活動など）を通して、親同士が楽しく語らうようになり、保護者間のコミュニケーションが深まってきている。

また、地域講師とも仲良くなり、活動の輪も広がってきている。

地域の教育力を保育に活かす

幼稚園だけでなく地域に目を向け、地域の自然を活用することから多様な感動体験を幼児に経験させることができる。

活動を行うに当たっては、教師自らが地域を知り学ぼうという気持ちが重要になってくる。

地域の自然環境が保育に活用できないか、また、地域の人材の発掘をするなど常にアンテナを張り巡らせ地域とコミュニケーションを図ることが大切である。

そして、幼稚園に地域講師として参加していただくことで、教育内容を理解していただくことができ、逆に地域へ幼稚園教育を発信することとつながってくる。

子育て支援

事例4 にこにこレンジャーお話隊 & 音楽隊

【 にこにこレンジャー音楽隊 にこにこレンジャーお話隊 絵本の貸し出し
『こころのたからもの』 『絵本でほっとたいむ』発信】

取組みのポイント

- 『にこにこレンジャー・音楽隊』『にこにこレンジャーお話隊』の活動を通して子ども達に感性や表現する力をはぐくむ。
- 「こころのたからもの」の活動を通して親子のふれあいを深める。

にこにこレンジャー音楽隊

歌の素晴らしさを知る
子ども達に豊かな感性を
育てる
保護者同士が仲良くなる
親子のふれ合いが深まる

9月15日【ふれあいコンサート】
「虫の声：夕焼けこやけ：さんぽ」
の歌を歌う。

子ども達に童謡を歌って聴かせよう！
一生懸命に練習した成果を出そうね。

家でも子どもと歌うようになったのよ。



園児・未就園児・地域・小学生へ

お母さんの歌は大好き！いつも一緒に歌っているよ。

にこにこレンジャーお話隊

お母さん上手！



園児へ

静かに聞いてくれて嬉しい！



小学校1・2年生へ

絵本の貸し出し

月に1度絵本を親子で借りる

親子の会話が増える
子どもの想いを知る
絵本に親しむ
親子の触れ合いの深まりが
生まれる

どの絵本にする？



どれにしようかな？おかあさん見ててね。

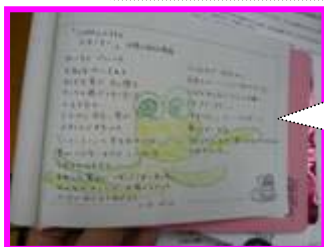
『こころのたからもの』

返却時に子どものつづやきを記入する

子どもの心を読み取る
親子のかかわりが深まる
絵本が好きになる



絵本の題名を書こうね。
この絵本が気に入ったの？



「10ぴきのかえるの
ふゆごもり」A児の好
きな場面です。母より。
(文章) 11月25日

絵本の貸出しについて

- ☆貸出しは2冊です。
- ☆借りるときは、日付と絵本の題名を記入します。
- ☆返すときは、絵本をもとの位置に戻し、ノートも所定の場所に置きます。
- ☆貸出日と返却日を守りましょう。
- ☆本は大切に扱いましょう。

『こころのたからもの』ノートの使い方

家庭で絵本を親子で楽しみましょう！

日常の子どものつづやき・子どもの遊び・お母さんの
気持・こどもの絵など自由に活用してください。

絵本の読み聞かせが、子ども達が大きくなったとき、
きっとかけがえのない心の宝物になるでしょう。そし
て・このノートが、母と子の心のメモリアルとなるで
しょう。



「絵本でほっとたいむ」「絵本感想集」の発信

多様な考え方や親子のふれ合い方を知る



尾道で絵本を読もう『ルピナスの会』
の読み聞かせの絵本の抜粋

「こころのたからもの」抜粋

絵本の選び方を知る
絵本の情報を交換する

園での子どもの様子を知る
絵本の選び方読み方を学ぶ

考察

- ・『にこにこレンジャー音楽隊』や『にこにこレンジャーお話隊』の活動を通して、保護者のつながりが深まっている。
- ・保護者は、子ども達に絵本の読み聞かせや童謡を一緒に歌う喜びを感じている。
- ・絵本の貸し出しの時間も親子のふれあい(会話)のきっかけ作りになっている。
- ・『こころのたからもの』を書くことで親子の絆が深まっている。
- ・絵本の貸し出しを通して、教師や親が子どもの興味・関心を知ることができている。また、家庭と幼稚園をつなぐ橋渡しの活動になっている。